

かわさき生ごみリサイクル交流会だより

N0.3

2015年2月

発行：かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会

第3回かわさき生ごみリサイクル交流会～生ごみを活かす 2014年11月16日 開催

13の市民団体等で構成する実行委員会と川崎市環境局の主催により川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）第3会議室で開催され、会場一杯となる58名が参加し、とても盛況でした。

第1部「コンテナで野菜をつくろう」では、有機無農薬で安全な野菜の作り方を講演していただきました。講師もテーマも第2回と同じです。それは、麻生区役所を会場に開催した前回が大変好評であったので、もっと多くの方に聴いていただきたいと、会場を変えての開催となったからです。コンテナを使う方法はベランダでも気軽に楽しめます。そこに生ごみ堆肥を活用することもおすすめです。

第2部では生ごみ堆肥を活かした花や野菜づくりをしている団体と個人の新しい事例紹介を行いました。以下、交流会の概要をお伝えします。

第1部 基調講演「コンテナで野菜をつくろう」

サクラ アキオ
講師：佐倉 朗夫 氏

（明治大学黒川農場特任教授・副農場長）



野菜は、歴史的には自分で作ったり、近所で出来たものを食べてきました。毎日食べる野菜を市民の皆さんにも気軽に作って頂きたい。

野菜を育てるには太陽、水、土が不可欠です。現在は植物工場といった太陽を遮断した化学工場のようなものもありますが、本来の農業からは離れています。生活の場に近いベランダやテラスだからこそ害虫を早期発見し、対処できます。

自然を利用して肥料に頼り過ぎず、デメリットは工夫で減らして、無農薬でおいしい野菜を作りましょう。

1 コンテナ栽培の特徴

メリット・・・直前収穫できる新鮮野菜、目が行き届く細かな管理、場所が選べて移動が可能。

デメリット・・・土の量が限られる、肥料・水もちが悪い、肥えやけ、根詰まり、土作りと土の再利用が難しい、畝を作れない、支柱を立てにくい、野菜の種類と作付数量が限定される。

コンテナの選択

移動しやすさ、見た目、管理しやすさとともに、作物に合った大きさ・深さを選ぶ。

講師 佐倉朗夫氏プロフィール

研究分野は有機農業・園芸学。神奈川県農業総合研究所、秋川牧園を経て、2007年より明治大学に勤務。2013年4月に「有機・無農薬で安心！コンテナで育てる野菜とハーブ」（講談社）を刊行。他にも有機農業に関する著書がある。

ほとんどの野菜は浅広65型でよいが、根菜類は深型を使う。ハーブ類は小型でよい。

2 コンテナの土づくり

土の詰め方・・・上下に必ずウォータースペースをとる。

一般的には赤玉土・腐葉土・肥料を少しずつよく混ぜながら、水も最初から少しずつ加えて水分60%にする（手で握って指の形が残る位が目安）。

堆肥と肥料の量を適切にする

- よくあるプランターでの堆肥と肥料の量の目安
 - ★標準的なもの（65cm×22cm×高さ18.5cm）
土量約150→1個に、堆肥100g 肥料15g
 - ★小型（42cm×19cm×高さ17cm）
土量約80→1個に、堆肥53g 肥料8g
 - ★菜園用浅広型（65cm×34cm×高さ22cm）
土量約450→1個に、堆肥300g 肥料45g
- マメ科を混植すると空気中の窒素を取り込むので、基肥は少なくても良い。

土の再利用と再生利用（土は基本的に何回も使う）

- 連続利用の場合・・・栽培残渣を抜き取り広げて数日乾燥。フルイで粗い土と細かい土に分ける。下から①鉢底石②細かく刻んだ残渣にバイオエースなど微生物肥料やボカシ肥料を混ぜたもの③ゴロゴロの古土④粗い古土と堆肥、カキ殻を混ぜたもの、を入れる。

- ・冬期の休閑・・・プランターから根を取り除き枯葉、落葉、植物残渣で覆い、そのまま春まで置き、未分解のものを取り除き、広げて乾燥。
- ・夏期の消毒（病気が出た土の場合）・・・細かい残根はそのまま発酵資材と肥料をよく混ぜる。水を入れ水分60%位にしてよく混ぜる。透明フィルムで土の表面を覆い、その上に全体を透明フィルムで包み日当たりのよい場所に2週間以上置く。

3 野菜の選び方

- ・連作しないのを基本とする。ただしニラは大丈夫。
- ・苗は植え付け前にバケツの水に鉢ごと静かに沈め、十分に水を吸わせる。
- ・水やりは根鉢から離し周囲にやる。そうすると水を求めて根張りがよくなる。

コンパニオンプランツ（相性の良いものを混植することで害虫を寄せにくくしたり生育を促進したりする）

- ・長ネギとウリ科のキュウリ、メロン、スイカ
- ・ニラとナス科のトマト、ナス、ピーマンなど
- ・ハーブ類、花類は、強い香りが虫を寄せたり、寄せ付けなかったりする。

水を好む野菜

- ・水を多く必要とするもの・・・枝豆、そら豆、カブ、キュウリ、里芋、ジャガイモ、フキ、生姜など。
- ・乾燥気味でよいもの・・・オクラ、キャベツ、小松菜、ホウレンソウ、カボチャ、トマト、スイカ。
- ・水が多くも少なくもない・・・イチゴ、シソ、春菊、ニラ、リーフレタス、パセリなど。

日当たりが少なくてもいい野菜

- ・ほとんどの野菜は日当たりを必要とするが、日当たりが少なくてもいい・・・ミツバ、ミョウガ、フキ、生姜、セリ、シソ、サラダ菜、レタスなど。
- ・大きく育つものは日当たりがたくさん必要・・・キャベツ、ブロッコリーなど。

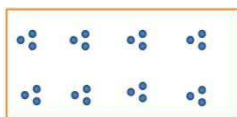
4 種まきと間引き

種まき

種の厚みの3倍下に埋め、まいた後に手のひらで鎮圧することで、水を吸い上げやすくなる。

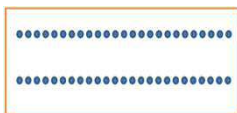
点まき（マメ類など大きな種）

- ・・・3粒ずつ離してまく。最終的に一本に間引く。



すじまき（葉物類）

- ・・・種と種が触れ合わないよう、すじ状に1cmおきにまく。丁度良い株間まで間引く。



ばらまき（リーフレタスなど）

- ・・・1cm位に間を空け、一面に丁寧にまく。食べごろから順次間引く。



間引き

- ・葉が隣と触れ合う程度の時を目安にする。
- ・抜いた後は必ず土を寄せておく。
- ・ばらまきの場合はハサミで切ったほうがよい。他の苗を傷つけないために。

支柱

- ・苗で買う作物は背が高くなっているものが多いので、植付け時すぐに支柱を立てる。立て方は4タイプあり作物に合った支柱を立てて効率よく葉に光を当てることが重要。
- ・栽培期間が長くなると、プランターが根で一杯になってくる。底まで届く穴をいくつか開け、空気と水が入るようにしてやると良い。



↑ ナスの支柱
← トマトの支柱

5 コンテナ野菜作りのポイント

- ① 有機物は植物性、発酵済みを使う
- ② いろいろなものを栽培する
- ③ 適期適作を心がける
- ④ 農薬は使わない
- ⑤ 基肥は少なめ
- ⑥ 追肥は有機液肥が便利
- ⑦ 日照の確保に努める

- より詳しく知りたい方は、佐倉朗夫著「有機・無農薬で安心！コンテナで育てる野菜とハーブ」（講談社）をご参照ください。



第2部 生ごみ堆肥を活かした花や野菜づくりなど～事例紹介

(1) 新川崎ふるさとづくりの会（有島淑子さん）

◆コミュニティガーデン～花も実もエコガーデニング～

ダンボールコンポストへの取り組みへのきっかけは、花壇の土壌の状況が芳しくなく、幸市民館の市民企画事業に応募、ダンボール堆肥学習会「花も実もエコガーデン」に参加、循環型のダンボールでの堆肥づくりを学びました。



また、平成23年川崎市生ごみリサイクル活動団体助成金を活用し、更に、会のメンバーが生ごみの堆肥化を学ぶと共に、地域の人にダンボールコンポストの良さを知ってほしい、出来た堆肥が余分で有れば花壇へ頂きたいという思いで普及に努めてきました。「環境を考え行動する会」の支援として御幸小学校の子供たちとふれあいの機会を持ち楽しくサポーターをしました。ガーデンは5年目に入り、現在、四季折々の草花や薔薇、ハーブが咲き地域の憩いの場所となりました。



(2) 川崎市地域女性連絡協議会（和田三恵子さん）

◆庭がなくても、生ごみ堆肥で野菜をつくろう

平成23年より、循環型社会をめざして生ごみリサイクル活動を行ってきました。26年度はダンボールコンポスト講習会を「川崎区生ごみリサイクルの会」と連携して開催しました。地面の少ない川崎区では、プランター栽培が主になりますが、講習会には各々で育てたプチトマトやゴーヤなどの収穫物を持ち寄り、生ごみ堆肥の成果を楽しみました。プランターでできるアスパラガス、スイカやメロンには驚きの声が上がりました。

小学校の環境学習での堆肥作りにも参加し、子供たちと一緒にダンボールの堆肥をかき混ぜてサポートをしました。

今後もダンボール堆肥づくりを継続するには、ダンボール基材を入手しやすく



【スイカもできました】

したり、使いきれない堆肥をどうするかなど、課題がありますが交流を深めて続けて行きたいと思います。

(3) 個人の取り組み（大藏優子さん）

◆生ごみ物語～生ごみから生まれたもの～

平成22年、自宅マンションの花壇のボランティアを始めましたが、土づくりの大切さを痛感し、幸市民館や環境局の生ごみリサイクル講習会に参加し、生ごみ堆肥の作り方を学びました。



現在、花壇では、ラベンダーやアジサイ、四季折々の草花が楽しめるようになりました。更に、咲いた花を使いドライにし、サシェ(匂い袋)やリースづくりで楽しんでいます。

また、地域の病院に通ったのがきっかけで、病院の花壇のボランティアもしています。「生ごみから生まれたもの」は、環境に優しい人の輪が広がる街づくりになっています。

(4) 環境を考え行動する会（天野悦子さん）

◆小学校でのダンボールコンポストの取り組み

5年間で実施したのはのべ14校(内5校が川崎)。1校につき2か月間丁寧にサポートします。

①準備→ダンボールコンポストキットを揃え、家庭への連絡等

②スタート授業→資源循環の話、やり方説明

③1か月間生ごみ投入→毎朝家庭から生ごみを持ちより堆肥化実践

④まとめの授業→投入量や温度の変化をグラフにまとめ発表「最初は臭くて嫌だったけど生ごみが消えた。白カビが生えたり湯気が出て驚いた。面白かった」と口々に！

⑤半月間熟成→完熟堆肥をめざして毎朝かき混ぜ

⑥できた堆肥で栽培→学校によって堆肥の使い方は様々

このような内容で学校と綿密に相談しながら進めていきましたが、生ごみが少なかったり集まりすぎたり心配は絶えません。地域のサポーターも朝早くから児童と一緒に会話を楽しみながらかき混ぜのお手伝い。「この素晴らしい体験を未来あるすべての児童に…」の思いで活動しています。



(5) 川崎市環境局生活環境部減量推進課

◆川崎市と明治大学黒川農場の生ごみリサイクルに係る連携事業について

連携事業は、平成25年度から3年計画で生ごみ堆肥の信頼性の向上等を目的に実施されています。

市は、市民モニター10世帯を募集、生ごみリサイクル講習会を開催し堆肥づくりに必要な基材を提供、市民がつくった生ごみ堆肥を回収し黒川農場へ搬入します。明治大学黒川農場は生ごみ堆肥の成分分析、生ごみ堆肥で展示栽培をします。栽培方法は、生ごみ堆肥区と化学肥料区で比較、昨年度と比べ、エダマメは同程度の収穫量があり、トマトは追肥をしたおかげか収穫量が上まっています。1年間取り組んだ市民モニターからは、リサイクルに対する意識が高まった、生ごみに対する考えが変わった等のアンケート結果が報告されています。

✿取り組みに対する佐倉朗夫氏の講評

児童と、堆肥をかき混ぜ、微生物の働きを知ったり楽しく循環を学ぶことは、子どもの成長に大変良いことです。また、市民花壇の土壌改良をダンボールコンポストの学習会を開催し、学び、実践し解決に至った、花も実もクラブづくりに活用している事、素晴らしい活動です。川崎市の生ごみの有用性の実験取組は、どんどん情報を出し活用してほしい。そろそろ生ごみ堆肥需給バランスを考える時期にきていると思います。回収等については、大きな場所を作るのではなく、農家や市民ガーデン等と連携し使用していくのが良いのではないのでしょうか。

コンテナ野菜づくりを実践して会場に展示

昨年の佐倉先生のお話を聞いた実行委員8名が、9月半ばから野菜づくりに挑戦しました。コンテナは持ち運びを考えて土の量5ℓ(40cm×15cm×13cm位)のもの、土には必ず生ごみ堆肥を混ぜて育て、当日持ち寄り、会場の出窓や前奥の方に展示しました。20cm位の高さに茂っているものや、一度失敗して種をまき直し5cm位のものなど。

第2部も終えてから司会が一言説明して参加者に見て帰っていただく予定のところ、先生が講演の終わりにコン



テナに近づきコメントを始められたのです。そしてすべての野菜1つ1つにコメントをしてくださいました。「もう聞き

引きした方がいいですよ」「チンゲンサイは硝酸態窒素を貯め込みやすいので自分で無農薬で作るのがお勧めです」などなど。委員としてはびっくりうれしでしたが、いかがだったでしょうか。

開会にあたり 環境局減量推進課長 佐藤洋一

普通ごみの収集回数を2013年9月に週2回に変更したところ。収集体制の変更から1年あまりが過ぎ、焼却するごみは大幅に減らすことができましたが、引き続き、3Rを基調とした取組を推進してまいりたいと考えております。

本市では、生ごみは普通ごみとして焼却しておりますが、堆肥化することで資源として有効に活用することができます。廃棄物問題は、日々の生活に密接に関係しているがゆえに、市民一人ひとりの取組が大変重要です。今後とも、皆様とともに、よりよい環境行政の推進に努めてまいりますので、ごみの減量化・資源化に御理解と御協力をお願い申し上げます。

生ごみリサイクルは協働で！ 実行委員長 奥山玲子

3回目となる今回もこのような協働の姿で、環境局と実行委員会が一緒になって開催することができました。

交流会の目的は、生ごみリサイクルをすすめること。そのために、生ごみリサイクルに関わる市民どうしや農家、教育機関などがつながりを強めることです。そして、この取り組みは川崎市との協働ですすすめることで最も効果をあげることができるのです。

実行委員会には、実際に生ごみリサイクルに携わっている団体が参集しました。私たちは、生ごみを燃やさず堆肥化し土に還すことを日々実践し広めているのですが、その堆肥を使って野菜を自分で栽培できたなら楽しみが増し、生ごみリサイクルがすすむのではないかと考えています。

●生ごみ堆肥を花づくりや野菜づくりに活かす方法や活動をたくさん知ることができました。♪第2部報告の合間に、社会福祉法人はぐるまの会が生ごみ堆肥で育てたハーブのフレッシュハーブティーとクッキーが供され、会場は爽やかな香りに満たされました。♪アンケート回答者の9割が佐倉先生の講演が参考になったと教えてくださいました。そこに生ごみ堆肥を使ってくださることに期待しています。

かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会 2014>

委員長 奥山玲子 (近藤ルートの会)

副委員長 有島淑子 (新川崎ふるさとづくりの会)

委員 阿部貴紅子 (かわさき生ごみリサイクルの会)、飯田和子 (新あさお生きごみ隊)、加藤伸子 (野菜だいすきファーム)、門平きょう子 (麻生・ごみゼロをめざす会)、竹内ふみ子 (エコグリーンクラブ)、中村祥子 (川崎市生ごみリサイクルリーダー)、福田真 (社会福祉法人はぐるまの会)、村山美香子 (環境を考え行動する会)、柳下博子

(幸・循環型社会を考える会)、由良直子 (川崎市生ごみリサイクルリーダー)、和田三恵子 (川崎市地域女性連絡協議会)

事務局 (川崎市環境局減量推進課) : 佐藤洋一、入江真久、須賀治

連絡先 : 川崎市環境局減量推進課 電話 044-200-2605

かわさき生ごみリサイクル交流会だより第3号

編集 : 奥山玲子、有島淑子、和田三恵子